

日刊 動労千葉

1988.1.22

No. 2743

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

動労水戸

第四回定期大会
88 団結旗ひらき 開催(1/5)

動労水戸は一月十五日、水戸市・茨城県労働福祉会館で、第四回定期大会・「一九八八年団結旗ひらき」を開催し、和気あいあいの中にも、闘う決意を全体のものとして打ち固めた。

地域の闘う仲間が多数結集

大会へ団結旗開きを通して、動労水戸組合員・家族をはじめ、多くの来賓、闘う地域の労働者六〇名が参加したが、動労千葉からは布施書記長、林執行委員（清算事業団）と青年部から大里優君（佐原・無人駅）が参加し、布施書記長から動労千葉・総連合を代表して連帯のあいさつを行った。また、自治労・県職、日放労茨城・樋口委員長、部落解放同盟茨城県連・高橋書記長、水戸平和問題懇談会・寺沢迪夫さん、国鉄分割・民営化絶対反対、国鉄労働者を支援する茨城県連合会・田中陽

平さん、動労高崎連帯・岡田書記長から動労水戸とともに闘う連帯のあいさつが行われた。

活発な意見が出される

質疑応答の中では、全員が発言し、大要次のような意見が出された。
◎全員が解雇されることを覚悟するところから動労水戸の決起が始った。

◎「仲間を裏切れない」「動労革マルの方針はまちがいだ」という原点を守って闘ってきた。三里塚へ全員で決起できる労働組合を創り出そう。

◎動労水戸は三六名で裁判闘争を闘い抜いている。動労水戸は三六名中乗務しているのは六名だけだが、JR当局と動労革マルは「高速道路との競争」だけを打ち出して、窓ガラスが割れたまま水戸へ上野を二往復させるなど、安全を全く無視している。

◎真岡線・第三セクター化で、強制配転や出向をやられるのかと、東鉄労組合員はビクビクしている。動労水戸は強制出向・配転を絶対許さない闘いをがんばろう。

◎職場では何も言はず、家へ帰った頃を見計って電話で配転を通告してきた。JR当局が、自分が正しいことをしているという確信がないからだ。「俺たちが変えなければ職場は変わらない」

若い動労水戸の無限の可能性
一九八八 団結旗開き



動労水戸旗ひらきであいさつする 林執行委員

動労水戸第4回定期大会



「動労水戸-総連合の路線の中にこそ勝利がある」辻川委員長

大会は、熱心な討論の中で予定時間をオーバーして終了した。直ちに同じ労働者福祉会館内の別会場へ全員が移動し、団結旗開きが開催された。
旗開きは、十五時から十八時まで盛大な中にも和やかな雰囲気ですすめられ、辻川委員長、福田書記長、国分執行委員によるバンド演奏をはじめ、さまざまな「パフォーマンス」が飛び出し、若い動労水戸の無限の可能性を示すものであった。

動労西日本 旗ひらき開催(1/5)

動労西日本の団結旗開きが、一月十五日、十三時から大阪・吹田市民会館において、三十五の各労働組合・地域共闘の団体を代表する五十余名の参加のもとに盛大に開催された。主催者を代表して、井面委員長は結成以来の動労西日本の闘いをふり振り返りながら次の様に述べた。
「事態の推意を見れば、我々が動労革マル松崎一派と訣別し、決起したこと、正しさがいよいよ鮮明になっている。昨

年十一月全労連が発足したが、政・財界の絶賛をあびるような組合は、労働組合ではない。八八年は労働運動の質が問われる年になるだろう。動労西日本は地域の闘う仲間、全国の仲間と連帯し闘い抜く」。

つづいて、全関西実行委員会を代表して山本善偉さん、解同荒本支部を代表して中田書記長、全港湾建設支部大和分会を代表して速水さん、全国一般北陸リコ

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！